

<放射線衛生管理学領域について>

指導教員：岡崎 龍史、香崎 正宙

放射線衛生管理学は、放射線被曝の歴史と今後、東京電力福島原子力発電所事故並びに廃炉作業に携わる従業員の低線量放射線被曝の影響について考えていく上で必要なこれまでの様々なデータに基づき学習して放射線の人体への影響を正しく理解させる。「特論」では、放射線の種類と性質、線量単位、放射線の人体の影響、放射線障害の歴史、放射線防護の基本理念、放射線安全取扱い、放射線に関する法令について理解させる。「演習」では、放射線障害を生じた事故や放射線防護対策等に関する事例の検討や放射能濃度の計算を行わせることで、自ら研究テーマを見出して解決していく能力を獲得させる。「実習」では、放射線防護の実習や検出器等を用いて放射能濃度を計測する実習等を実施させて放射線の人体への影響を正しく理解させる。「論文指導」では、東京電力福島原子力発電所での廃炉作業に携わる従業員の低線量放射線被曝の影響について考えていく上で、具体的に出たデータをまとめ、放射線影響を論理的に解析していく。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

放射線衛生管理学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

放射線衛生管理学（岡崎龍史教授）が中心となって指導する研究

- 東京電力福島原子力発電所の作業者に対する不安のアンケート調査及び放射線教育による不安軽減効果に関する研究
- 放射線関連法令の各施設の実施状況の調査並びに提言
- 個人別放射線感受性に評価の開発（基礎実験）

放射線衛生管理学（香崎正宙講師）が中心となって指導する研究

- p53 遺伝子壊変マウスや培養細胞を用いた低線量放射線の影響の基礎研究
- 放射線被ばくによる発がん機序に関する基礎研究

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、2つ以上の項目を満たすこと

- 放射線に対する基礎的な知識がある。
- 想定される分析手法を理解している。
- エクセル、パワーポイントの操作に習熟していること。
- 何らかの学術論文を執筆、あるいは学会発表をした経験がある。

ただし基礎研究を行う場合、そのための施設が確保できていること。

問い合わせ先：放射線衛生管理学 代表メールアドレス
j-hsyknk@mbx.med.uoeh-u.ac.jp